

短 報

カワラバッタを河川域外の採石場で採集 (その2)

大高 茂範*・仁木 雅彦**・佐伯 英人***

Eusphingonotus japonicus collected in the quarry distant from the river (Part 2)

OTAKA Sigenori, NIKI Masahiko and SAIKI Hideto

Abstract : In 2013, 2 individuals of *Eusphingonotus japonicus* were collected in the quarry distant from the river. In 2014, the survey on this species living in the quarry was carried out, and as the result, 4 individuals of this species were collected, and additionally more than 10 individuals were observed without being collected.

キーワード : カワラバッタ, 採集, 採石場

Key words : *Eusphingonotus japonicus*, Collection, Quarry

はじめに

カワラバッタ *Eusphingonotus japonicus* の体長は雄が 25 ~ 30mm, 雌が 40 ~ 43mm, 体色は河原の小石の色に似た灰色である。後翅の中央部には半円形の褐色の帯があり, その内側は鮮やかな青色をしている (佐伯・小川, 2013)。本種の生息地は, 宮武・加納 (1992) で「河原のコブシ大の石ころが目立つところにいる」と記されているように, 一般的に河原であることが知られている。

本種は, 47 都道府県中, 27 の都府県でレッドリストに掲載されている (野生生物調査協会・EnVision 環境保全事務所, 2013)。2013 年発行の「レッドデータブック まつやま 2012」では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に選定されている (佐伯・小川, 2013)。なお, 2003 年発行の「愛媛県レッドデータブック」には掲載されていない (愛媛県貴重野生動物検討委員会編, 2003)。

2013 年 9 月 14 日 (土), 河川域外の採石場 (愛媛碎石の山之内工場 [東温市山之内]) で本種を 2 個体 (雄 1 個体, 雌 1 個体) 採集した (大高・仁木・佐伯, 2013)。採集地の位置は, 環境庁自然保護局 (1997) のメッシュコードでいうと「5032-6732」の地点である。採集地と重信川の距離を地図上で測ったところ, 直線距離で 750m ほどであった。このとき採集した個体は前述した

ように 2 個体であったが, 採集した個体の他に本種を 5 ~ 6 個体目撃した。複数の個体の生息が確認されたことから, この採石場が本種の生息地になっていることが考えられた。しかし, 本種の消長については不明であった。調査の目的は, 2014 年も本種がこの採石場に生息しているのかを明らかにすることである。

調査方法

2014 年 9 月 13 日 (土), 愛媛碎石の山之内工場 (東温市山之内) で調査を行った。捕虫網を使った目視法で本種を採集し, 本種が同地に生息しているのか否かについて確認した。また, 採集地の緯度, 経度, 標高を Garmin 社の GPSMAP60CSx で計測した。

結果と考察

採集地の緯度, 経度, 高度は, 北緯 33 度 51 分 55 秒, 東経 132 度 54 分 07 秒, 標高 330m であった。採集地の場所を図 1 と図 2 に示す。図 3 は採集地のようす, 図 4 は地面のようすである。

本調査において採集した個体数は 4 個体 (雄 2 個体, 雌 2 個体) であり, いずれも同地で採集した。採集した

* 久万高原町立美川小学校 (〒 791-1504 上浮穴郡久万高原町大川 4333)

** 松山市立伊台小学校 (〒 791-0112 松山市下伊台町 1438-1)

*** 山口大学教育学部 (〒 753-8513 山口市吉田 1677-1)

* Mikawa Elementary School, 4333 Okawa, Kumakogen, Kamiukena, 791-1504

** Idai Elementary School, 1438-1 Shimoidai, Matsuyama, 791-0112

*** Faculty of Education, Yamaguchi University, 1677-1 Yoshida, Yamaguchi, 753-8513

個体のうち、雄1個体、雌1個体の写真を図5、図6に示す。なお、採集者は筆者の1人の佐伯であり、現在、標本は佐伯が保管している。

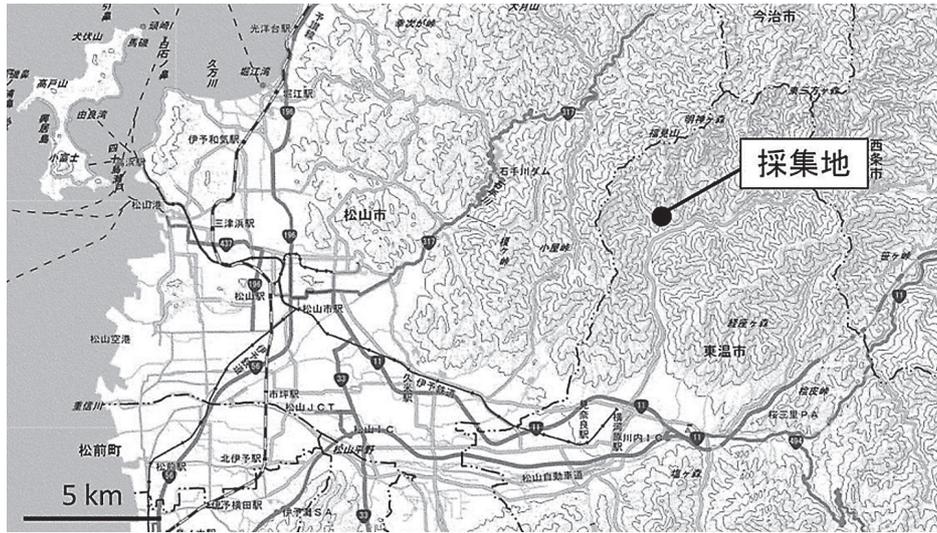
採集した個体の他に本種を10個体以上目撃した。2013年、2014年と2年続けて複数の個体の生息が確認されたことから、この採石場に本種が定着していることが考えられた。

おわりに

重信川の上流域には、愛媛碎石の山之内工場だけでなく、他の採石場もある。他の採石場についても調査を行い、本種が生息しているのか否かについて確認する必要がある。また、他県においても、本事例と同様、採石場など河川域外の場所に本種が生息している可能性はあると考えられる。

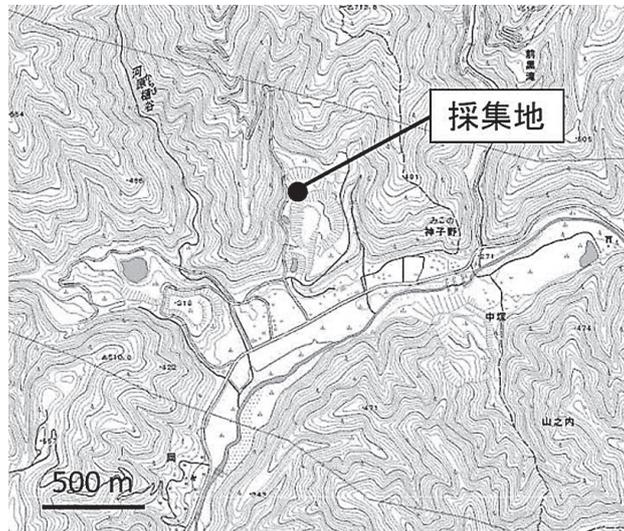
文 献

- 愛媛県貴重野生動植物検討委員会編（2003）愛媛県レッドデータブック-愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物-。愛媛県県民環境部環境局自然保護課。447pp.
- 環境庁自然保護局（1997）都道府県別メッシュマップ 38 愛媛県。自然環境研究センター。索引図 37
- 宮武頼夫・加納康嗣（1992）検索入門 セミ・バッタ。保育社。p.112
- 大高茂範・仁木雅彦・佐伯英人（2013）カワラバッタを河川域外の採石場で採集。月刊むし。第514号。pp.26-27
- 佐伯英人・小川次郎（2013）カワラバッタ。p.102。In：まつやま自然環境調査会編（2013）レッドデータブックまつやま 2012 松山市における絶滅のおそれのある野生生物。松山市環境部。256pp.
- 野生生物調査協会・EnVision 環境保全事務所（2013）カワラバッタ。日本のレッドデータ検索システム。<http://jpnrd.com/search.php?mode=map&q=07090170526&sort=s>（参照 2014-9-26）



(国土地理院発行の電子地形図 (タイル) を使用)

図1 採集地の場所



(国土地理院発行の電子地形図 (タイル) を使用)

図2 採集地の場所



図3 採集地のようす



図4 地面のようす



図5 採集した個体（雄）



図6 採集した個体（雌）